



東証一部(証券コード 6848)

IR会社説明会

東亜ディーケーケー株式会社

取締役副社長 玉井 亨

平成28年12月12日

- 1. 会社概要・事業内容**
- 2. 業績推移・業績予想・株主還元・株価**
- 3. 第2次HYBRID経営計画の取り組み
（平成28年4月1日～平成31年3月31日）**

注記がない限り、本資料に記載された財務数値及び業績予想は、原則として連結ベースで記載しております。本資料の金額は単位未満切捨てで表示しております。これにより、合計が合わない場合があります。比率は小数点第1位未満四捨五入で表示しております。

経営理念

『誠実・創造・挑戦』をモットーに地球環境保全と豊かで人にやさしい社会環境の実現に貢献します。

「水・大気・ガス・医療」の計測技術を柱に、総合計測機器メーカーとして、環境計測から化学分析まで幅広い分野で人々の暮らしを支えています。

代表取締役社長： 佐々木 輝男

所在地： 東京都新宿区高田馬場一丁目

設立： 昭和19年(1944年)9月

資本金： 18億4,248万1千円

従業員数： 連結 604名、単独 345名

事業所： 狭山テクニカルセンター・開発研究センター(狭山市)
東京エンジニアリングセンター(東大和市)

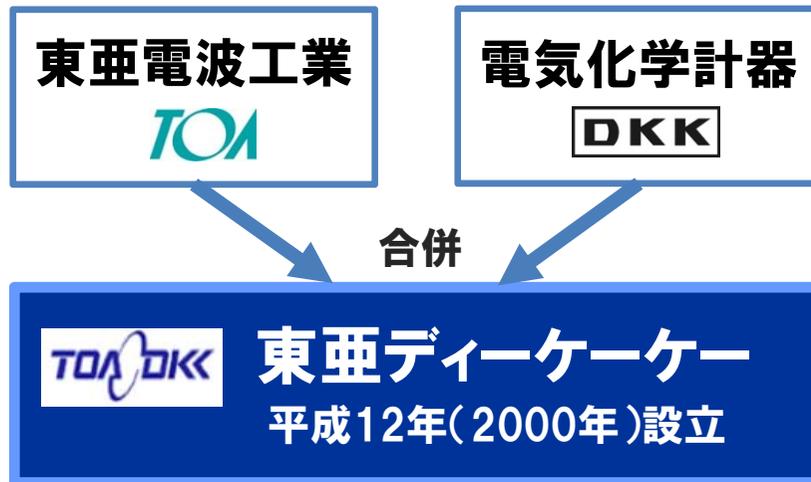
営業所： 国内13ヵ所

連結子会社： 国内6社：主に製造(山形と岩手)とサービス



本社ビル

沿革と事業構成

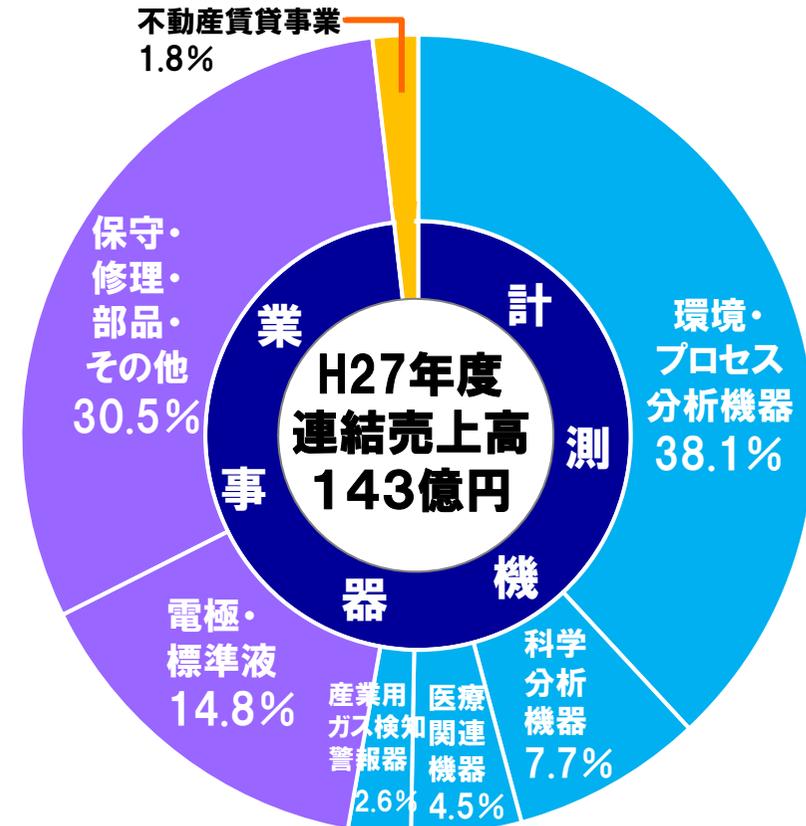


「水・大気・ガス・医療」を柱とする
総合計測機器メーカー

平成17年 (2005年) 米国HACH社と業務提携
及び資本提携

平成25年 (2013年) 東証第一部指定銘柄

平成26年 (2014年) 創立70周年



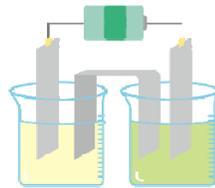
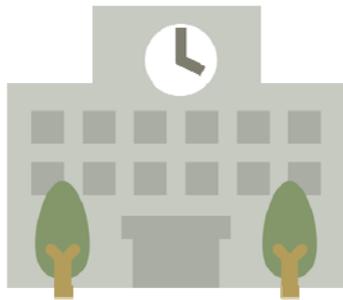
当社の特長

- 創立以来のpH計、電気伝導率計などの保有技術は幅広い用途に対応
- 官公庁から幅広い業種の企業とお取引
- 開発・製造・販売からアフターサービス(保守・修理)までの一貫体制

水	大気	ガス	医療
<p>環境・プロセス分析機器</p> <p>水道水用水質自動測定装置</p> <p>全窒素全りん計</p> <p>油膜検知器</p> <p>pH計変換器</p> <p>電気伝導率計</p>	<p>PM2.5測定装置</p> <p>大気SO₂SPM測定装置</p>	<p>産業用ガス検知警報器</p>	<p>医療関連機器</p> <p>透析用薬剤溶解装置</p>
<p>科学分析機器</p> <p>ラボ用水質計</p> <p>ポータブル用水質計</p>			

水 あらゆる分野の水質管理をサポート





ラボ用分析機器

- ➡ 卓上型、簡単操作、高精度な測定
- ➡ 大学や試験研究機関、生産ラインの品質管理などあらゆる分野の化学分析に使用

ポータブル分析計

- ➡ 小型・軽量でフィールド調査向け
- ➡ 生産現場の工程分析や川や湖での環境監視のため、現場での簡易測定に使用



マルチ水質計
(Xシリーズ)

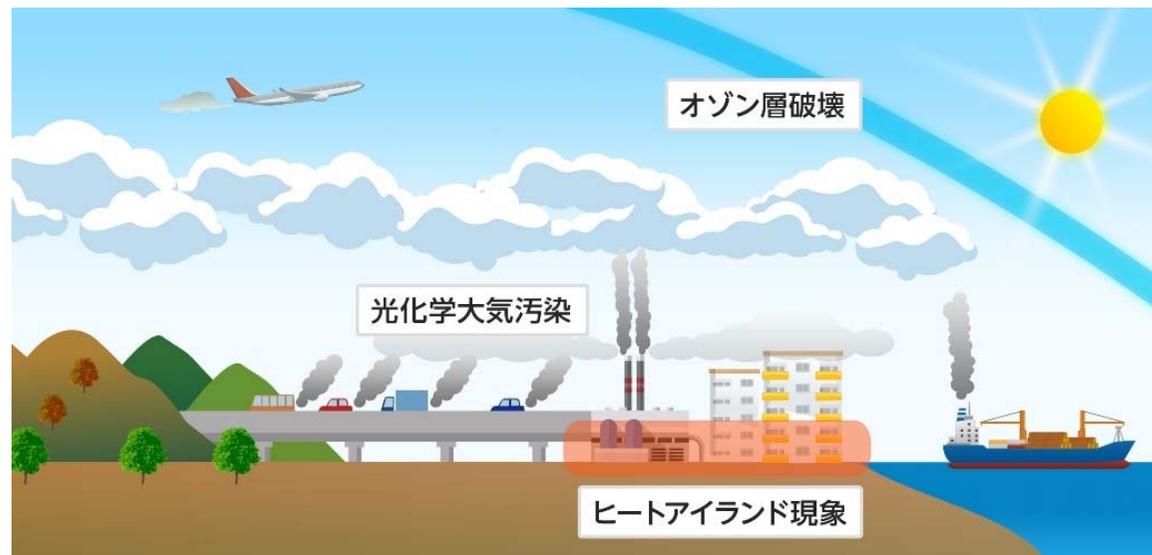


水質計



蛍光式溶存酸素計
(HACH製)

大気 大気汚染状態を監視



環境大気移動測定車



NO.1
国内シェア
NO.1
(約5割)

PM2.5
測定装置



大気SO₂SPM
測定装置

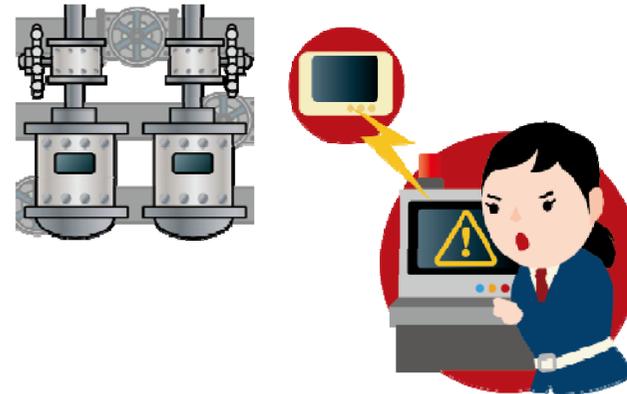


排ガス分析計

ごみ焼却施設や各種工場からの排ガスに含まれる大気汚染物質濃度を測定



排ガス測定装置



ガス検知警報器

半導体工場など製造工程で使用する危険なガスの漏洩を検知し警報



毒性ガス検知警報器



粉末型透析用溶解装置は、センサ技術を使い、粉末剤を効率的に一定濃度で溶解し、人工透析治療に必要な透析原液を作り、安定供給



A剤溶解装置

最大70床までの
供給が可能



B剤溶解装置

1. 会社概要・事業内容
- 2. 業績推移・業績予想・株主還元・株価**
3. 第2次HYBRID経営計画の取り組み
(平成28年4月1日～平成31年3月31日)

注記がない限り、本資料に記載された財務数値及び業績予想は、原則として連結ベースで記載しております。本資料の金額は単位未満切捨で表示しております。これにより、合計が合わない場合があります。比率は小数点第1位未満四捨五入で表示しております。

平成28年度上期業績



- 👉 売上高は海外で増進したが、国内需要が伸び悩み減収
- 👉 収益は計測機器事業と不動産賃貸事業の売上高減少により減益
- 👉 単月黒字化:平成21年9月以降 **7年1ヶ月 = 85連勝中**

(単位:百万円)

	H27年度 上期実績 (A)	H28年度 上期計画 (5月10日公表) (B)	H28年度 上期実績 (10月28日公表) (C)	前年 同期比 (C-A)	計画 対比 (C-B)
計測機器事業	6,536		6,268	△267	
不動産賃貸事業	133		108	△24	
売上高	6,669	6,400	6,377	△292	△23
営業利益	453	360	361	△92	+1
経常利益	480	370	410	△69	+40
四半期純利益	281	210	234	△46	+24

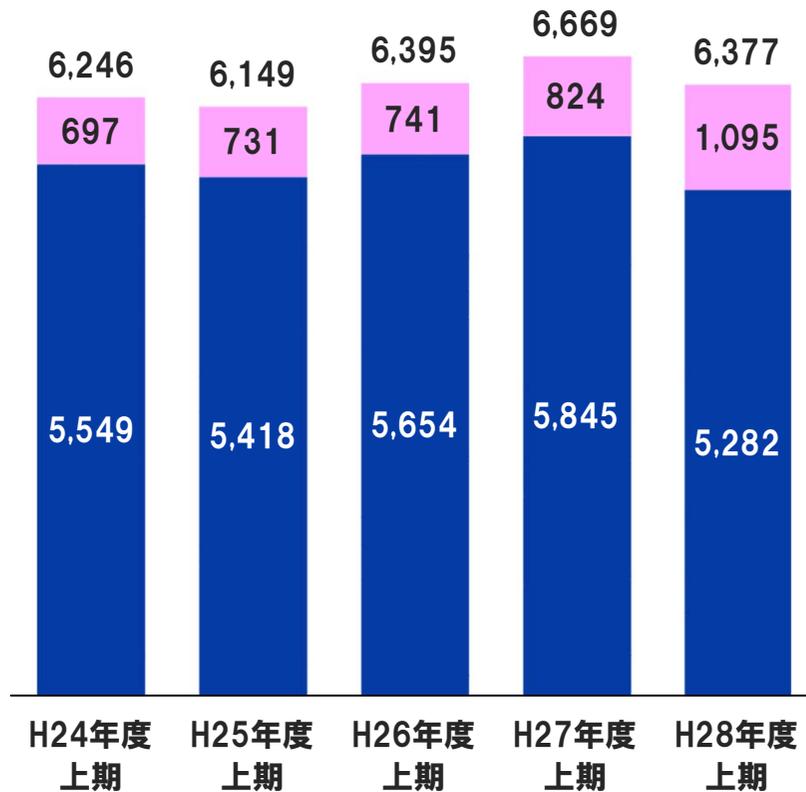
国別売上高推移（上期）



（単位:百万円）

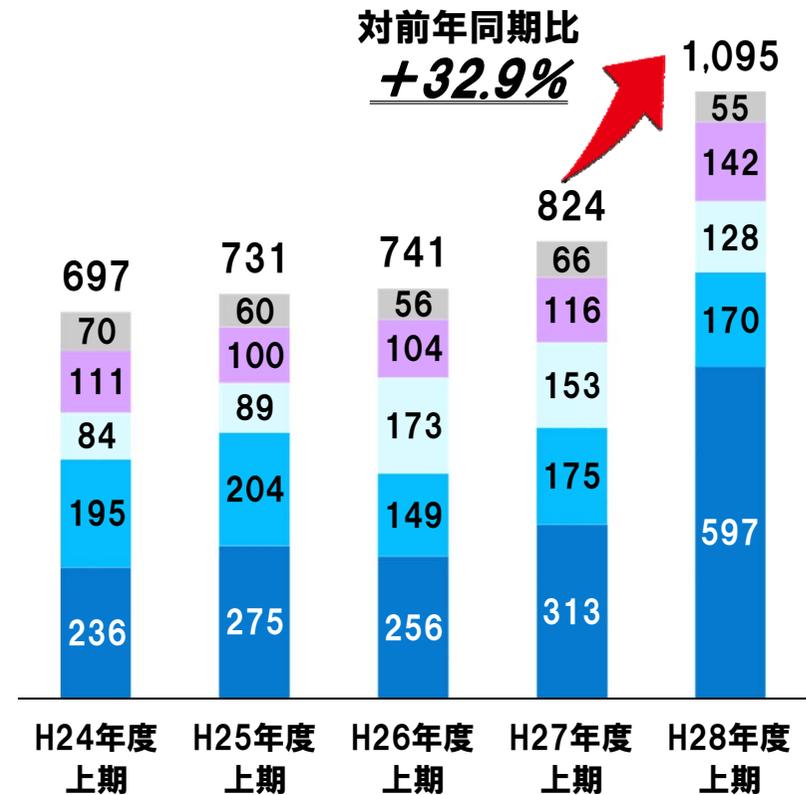
国内外の売上高

■ 国内売上 ■ 海外売上



海外の国別売上高

■ 中国 ■ 韓国 ■ 台湾 ■ その他のアジア ■ その他

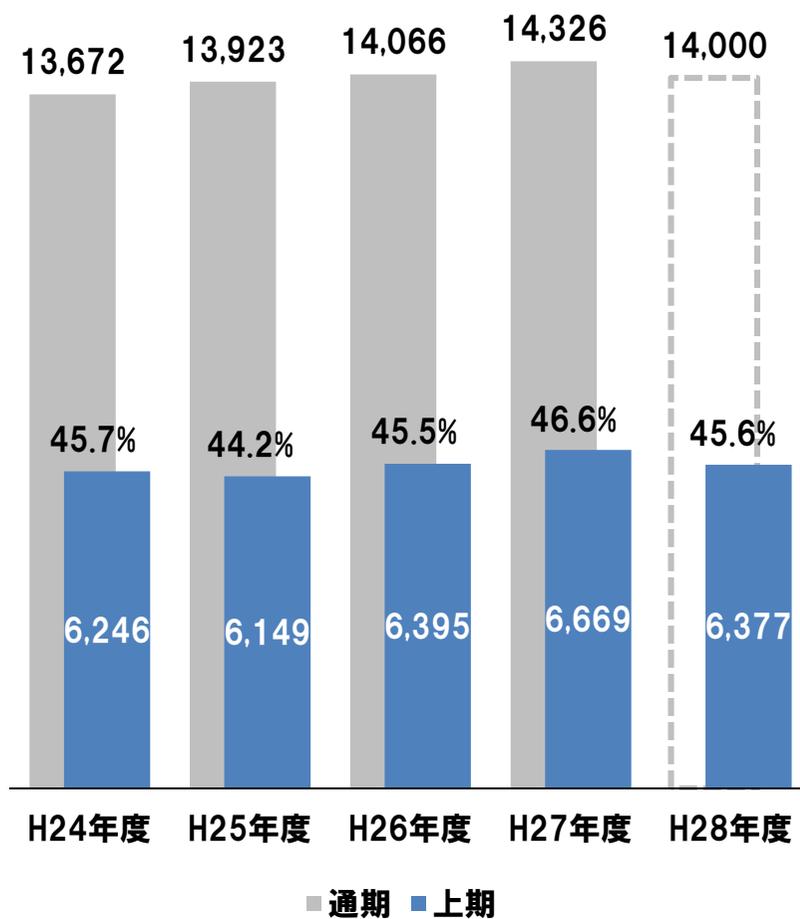


上期進捗率推移

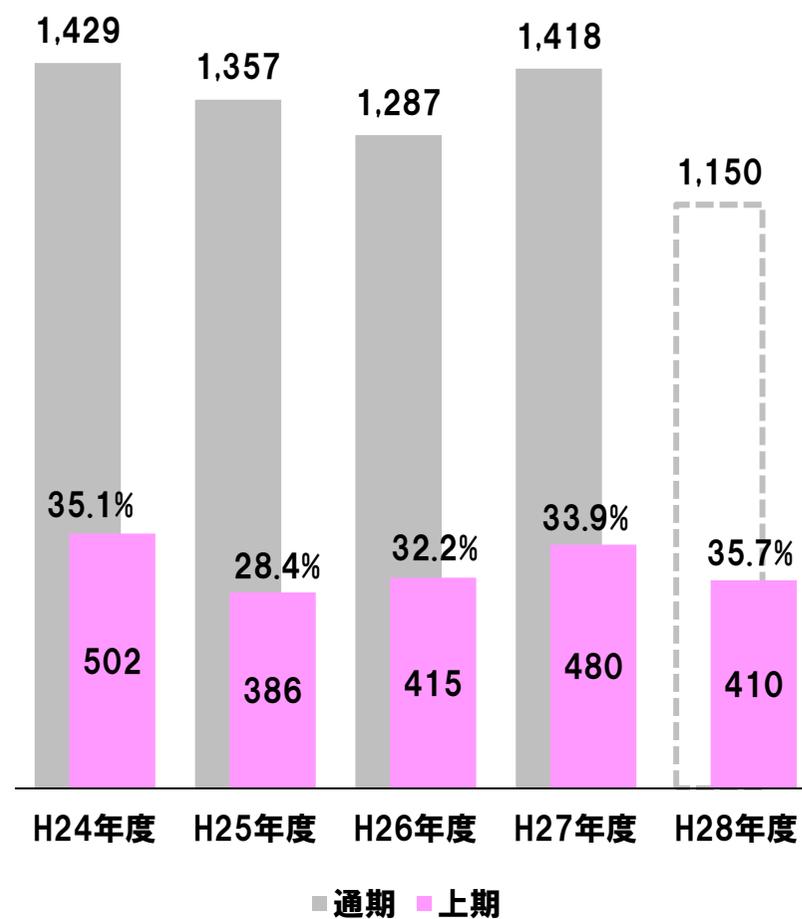


(単位:百万円)

売上高



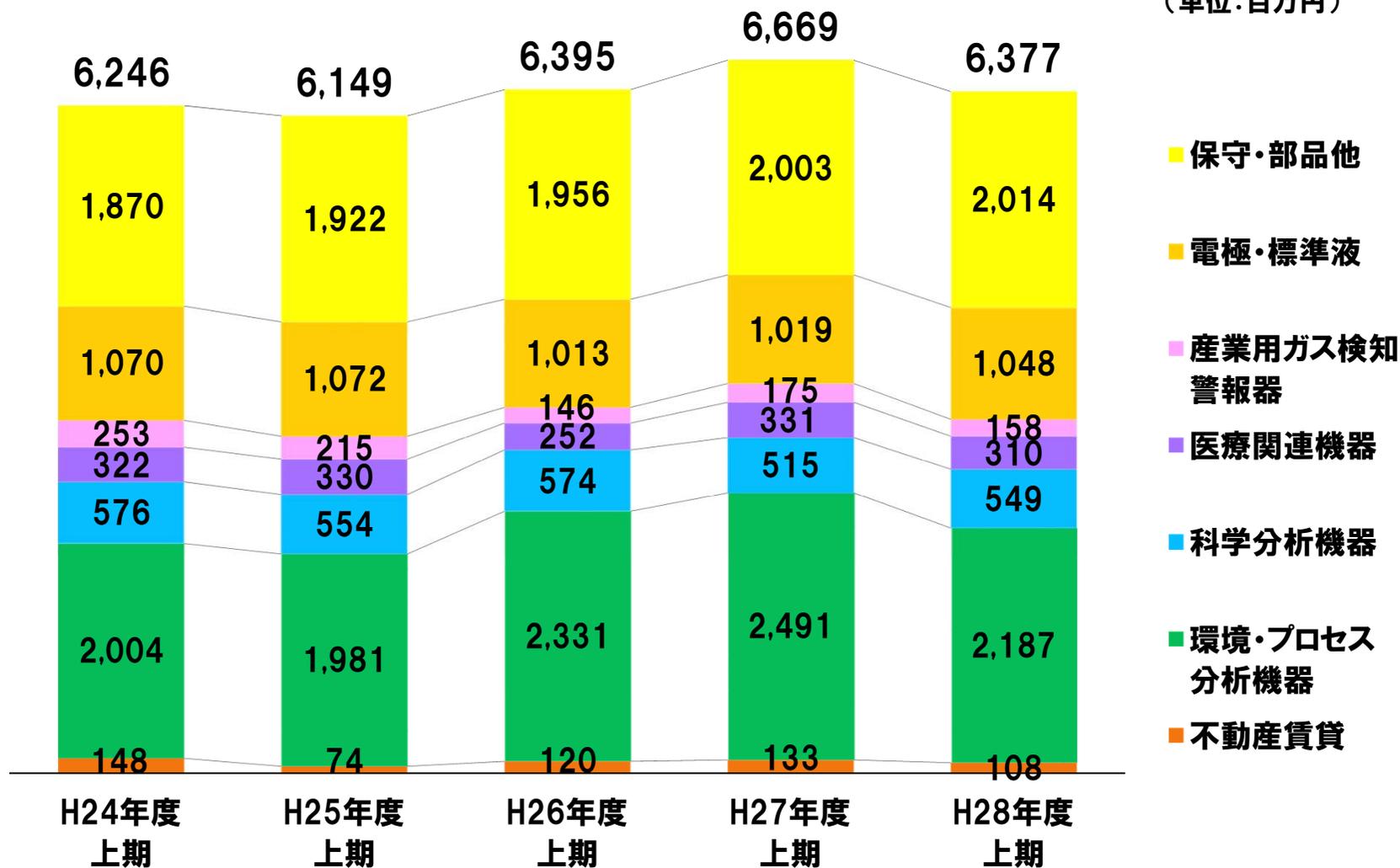
経常利益



分野別売上高構成推移（上期）

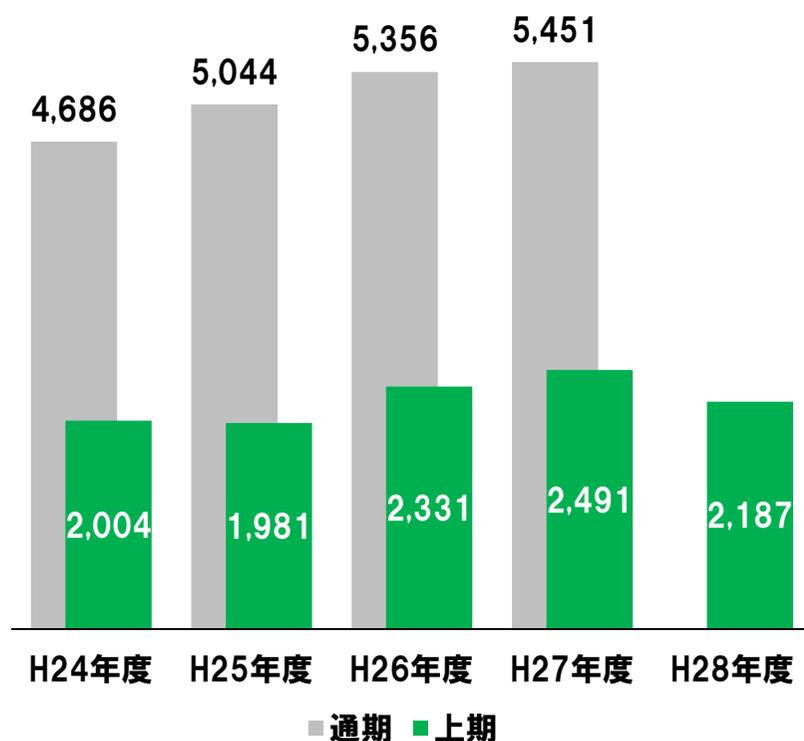


（単位：百万円）



環境・プロセス分析機器売上高

(単位:百万円)



前年同期比

(H27年度上期 vs H28年度上期)

△12.2%

水

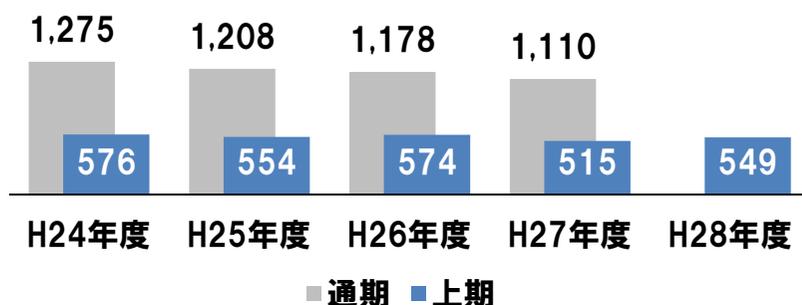
- 国内: 前年の大型案件減少分と設備投資の鈍化により売上減少
- 海外: 中国向け環境用水質分析計で売上増進
- ☞ 下期: 国内の環境省第5次水質総量規制時の更新需要等で売上挽回を図る

大気

- 国内: 新設需要が一巡し横ばい
- ☞ 下期: 国内のリプレイス需要の獲得と中国を中心とした海外での受注獲得に注力

科学分析機器売上高

(単位:百万円)



■前年同期比

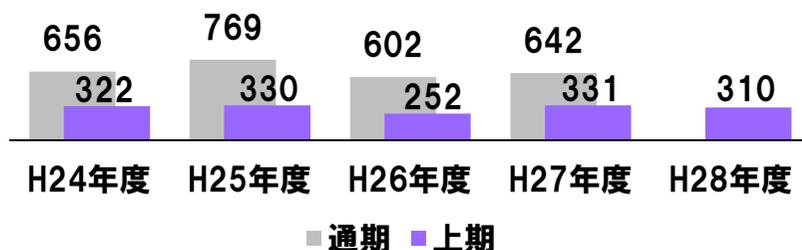
+6.6%

(H27年度上期 vs H28年度上期)

- ラボ用分析機器で分析計、実験室の自動化システム等が増加
- ☞ 代理店訪問の展開で売上確保

医療関連機器売上高

(単位:百万円)



■前年同期比

△6.2%

(H27年度上期 vs H28年度上期)

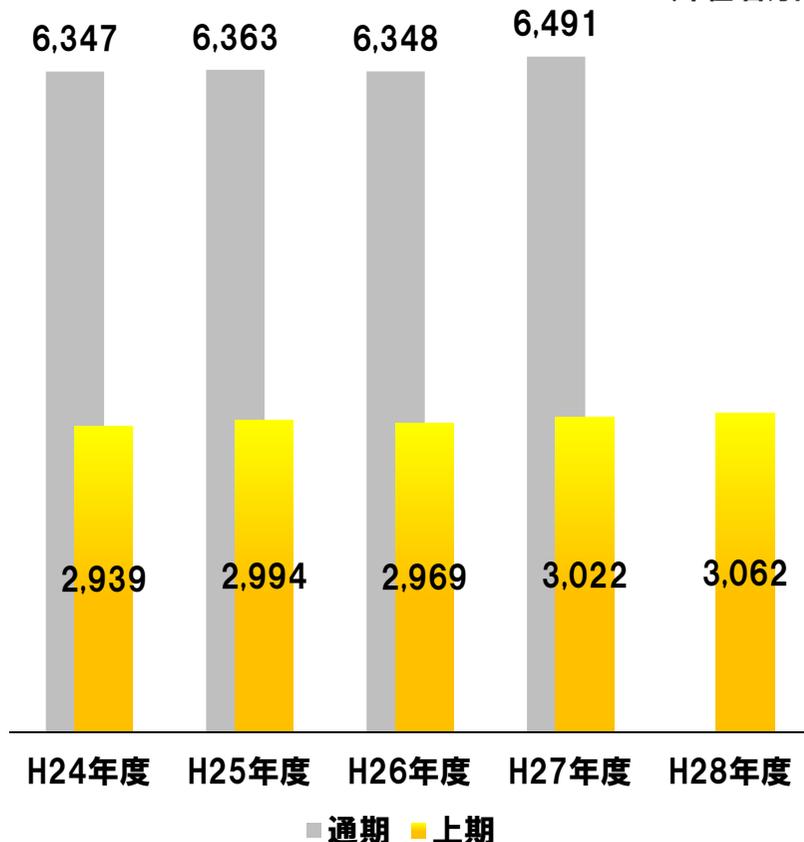
- 今期は微減で、概ね横ばいで推移
- ☞ 今後の需要増により事業拡大を見込み、新工場建設に着手

[主要分野] 保守・補用品



保守・補用品売上高

(単位:百万円)



■電極・標準液

前年同期比 +2.8%
(H27年度上期 vs H28年度上期)

■保守・部品他

前年同期比 +0.5%
(H27年度上期 vs H28年度上期)

- 予算の圧縮傾向が見られるものの、前年同期比1.3%増
- ☞ 保守・点検等の技術サービス事業の拡大を促進

*全国に広がる
営業サービス拠点網



平成28年度通期業績予想



- 👉 下期業績は上期の減少分を挽回することは難しいと判断し、通期連結業績予想は、売上高、営業利益、経常利益の予想をそれぞれ下方修正。
- 👉 当期純利益は、埼玉県狭山市に賃貸用不動産として保有する土地を売却することにより特別利益を330百万円計上する見通しから上方修正。売却代金の一部は、医療関連機器専用の新工場建設資金に充当の予定。

(単位:百万円)

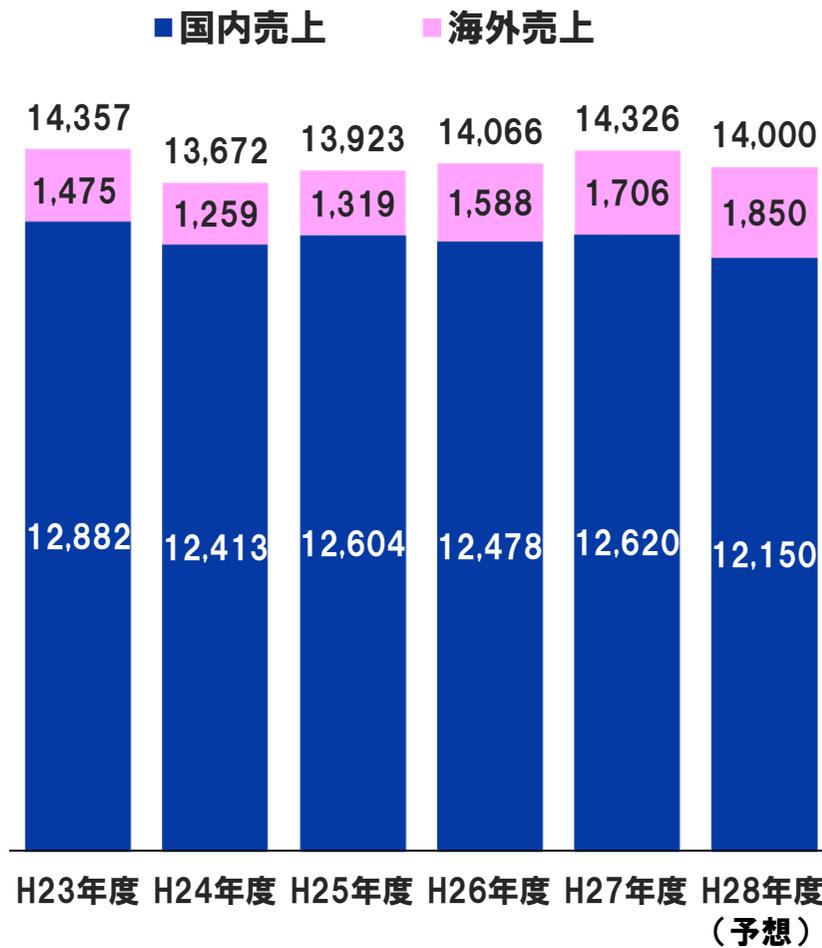
	H27年度 実績	H28年度 業績予想 (5月10日公表)	H28年度 修正業績予想 (10月28日公表)	前年比	
				金額	%
売上高	14,326	14,500	14,000	△326	△2.3
営業利益	1,367	1,200	1,100	△267	△19.5
経常利益	1,418	1,300	1,150	△268	△18.9
当期純利益	931	900	1,030	+99	+10.6

国別売上高推移

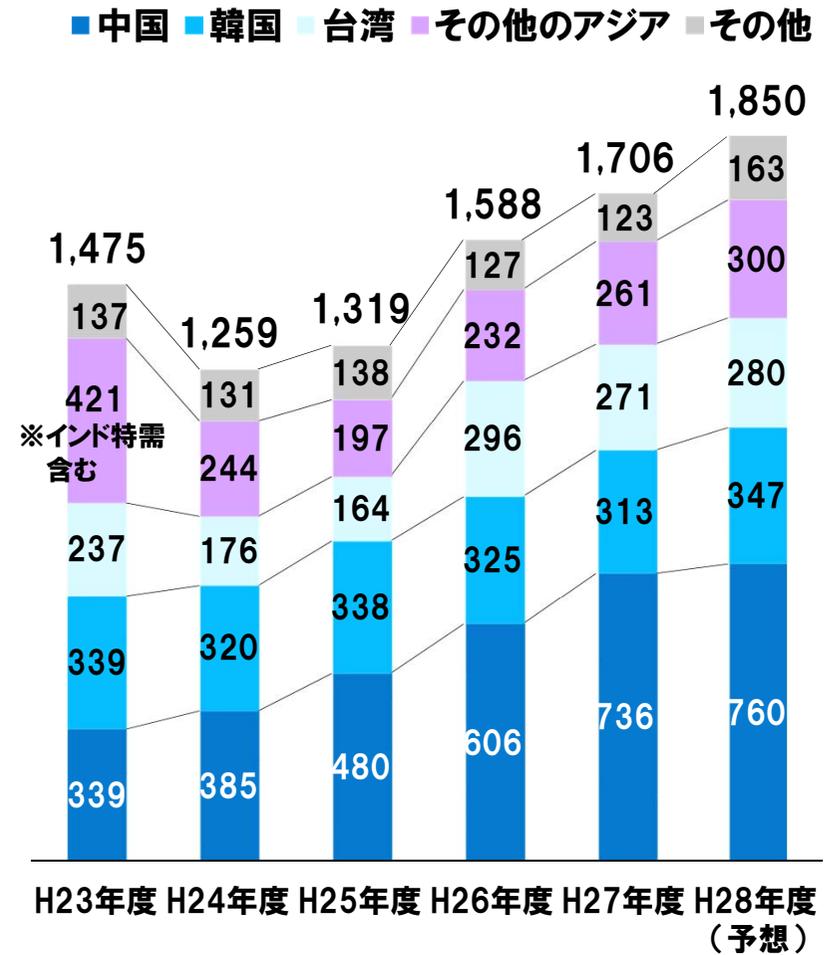


(単位:百万円)

国内外の売上高



海外の国別売上高



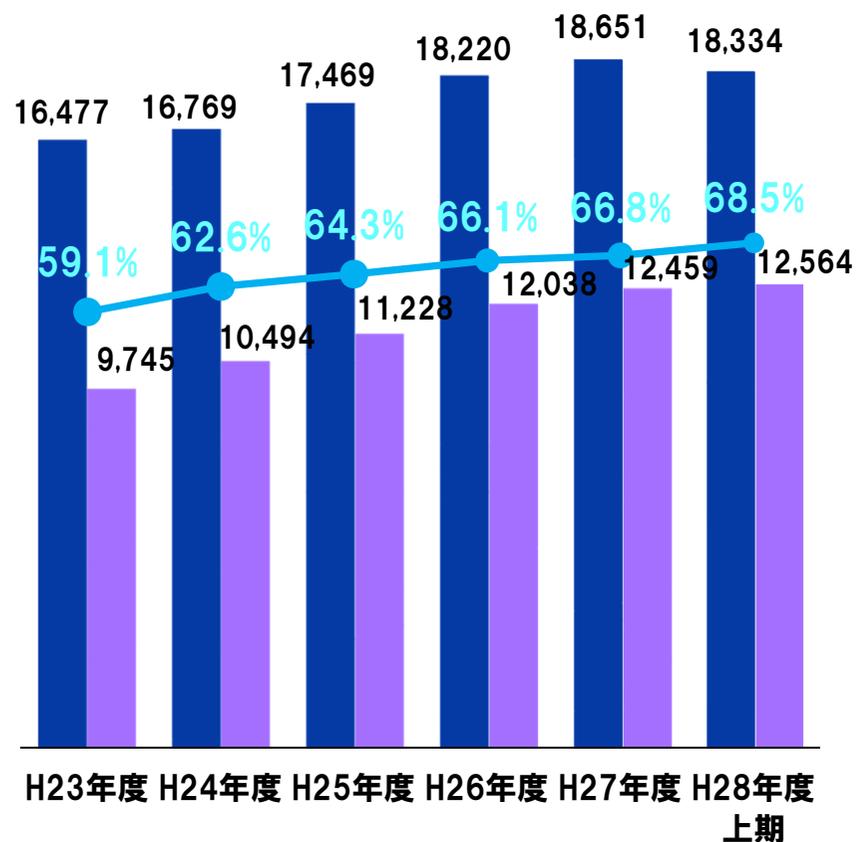
自己資本比率・ROE等



(単位:百万円)

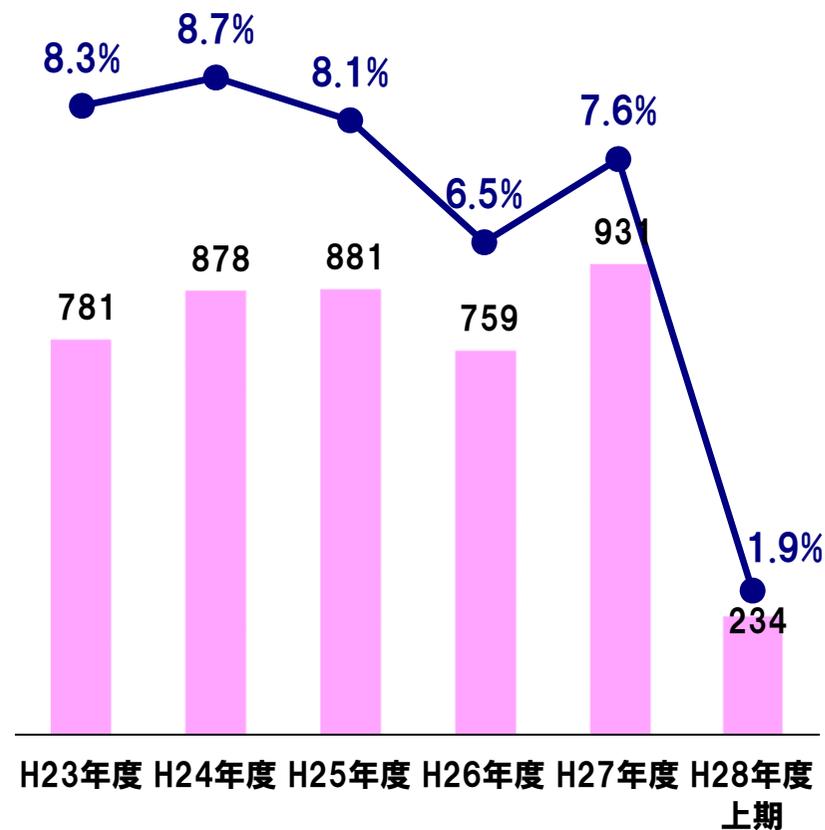
総資産・純資産・自己資本比率

■ 総資産 ■ 純資産 ● 自己資本比率(%)



当期純利益・ROE

■ 当期純利益 ● 自己資本当期純利益率 (ROE)



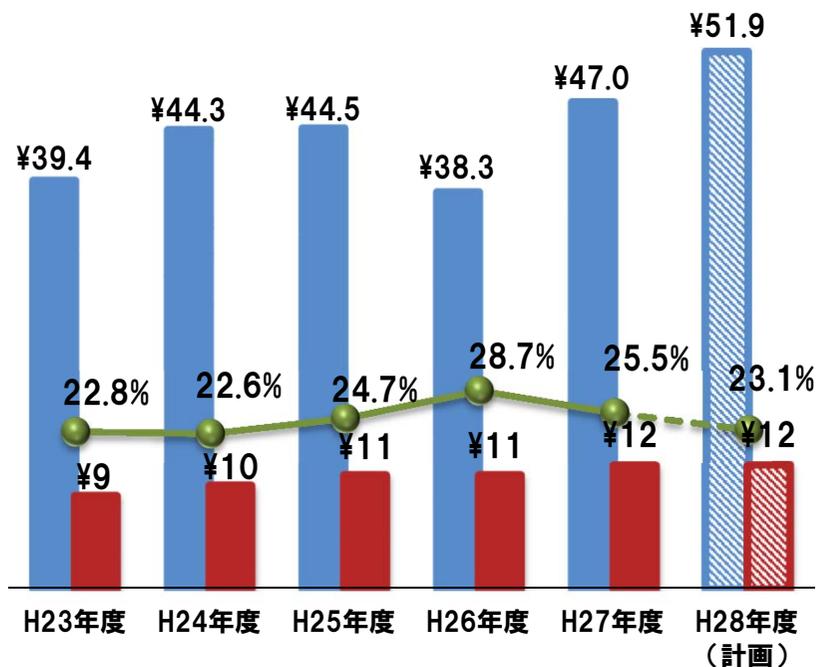
株主還元(配当金・株主優待)



- 株主様への利益還元を経営の最重要政策と位置づけ
- 将来の事業展開への内部留保を勘案し、業績に応じ安定的な配当を継続

配当金・配当性向の推移

■ 1株当たり純利益 ■ 1株当たり配当金 ● 配当性向



株主優待

毎年9月末現在の株主名簿に記載された株主様に、「緑の募金」付クオカードを贈呈



所有株式数	優待内容
100株以上500株未満	寄付金付クオカード500円分
500株以上1,000株未満	寄付金付クオカード1,000円分
1,000株以上	寄付金付クオカード2,000円分

株価の推移



株価	単元株式数	必要投資金額	市場
508円(H28年12月1日現在)	100株	約5万円	東証1部



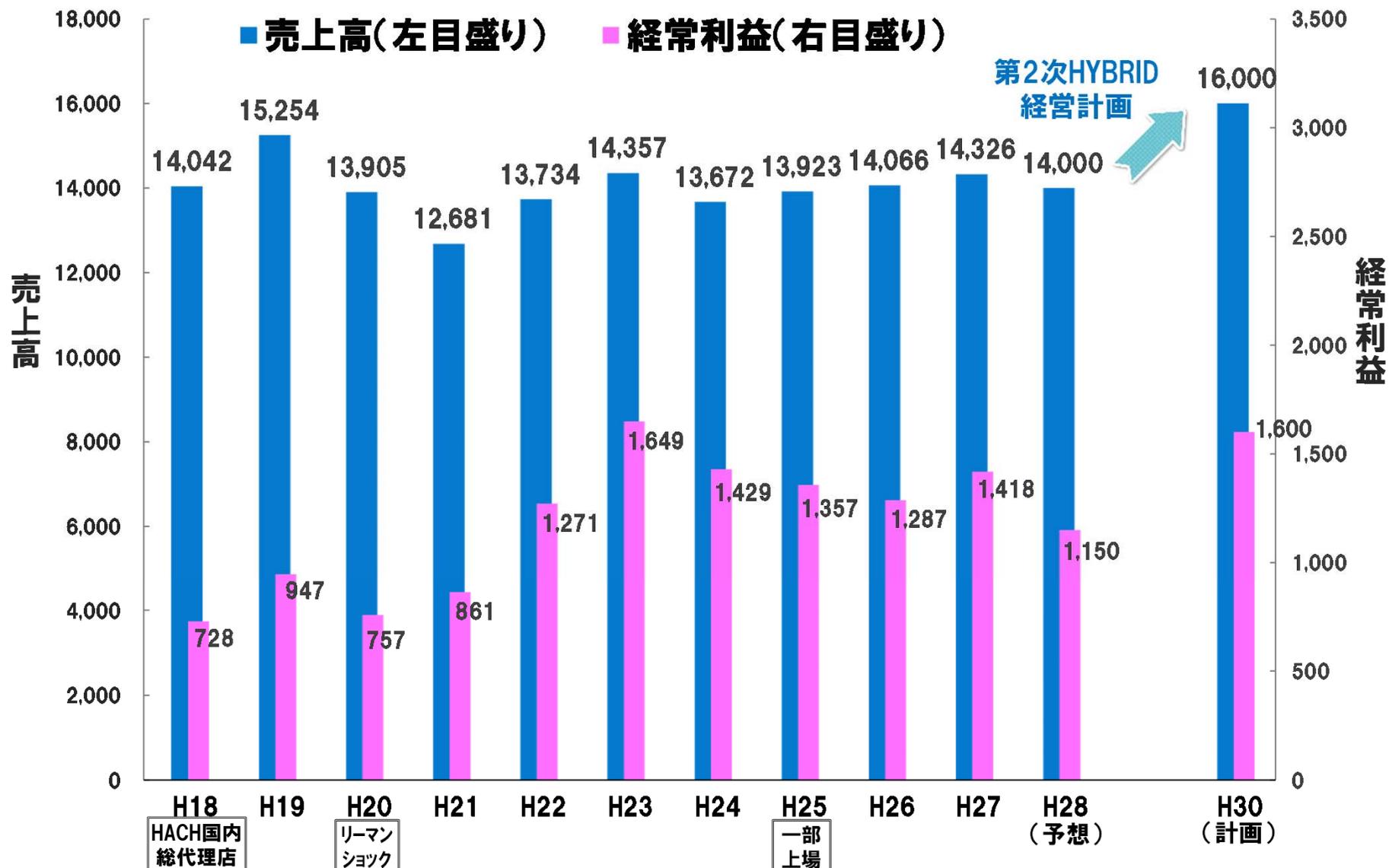
1. 会社概要・事業内容
2. 業績推移・業績予想・株主還元・株価
- 3. 第2次HYBRID経営計画の取り組み
(平成28年4月1日～平成31年3月31日)**

注記がない限り、本資料に記載された財務数値及び業績予想は、原則として連結ベースで記載しております。
本資料の金額は単位未満切捨で表示しております。これにより、合計が合わない場合があります。
比率は小数点第1位未満四捨五入で表示しております。

売上高・経常利益推移(連結)



(単位:百万円)



第2次HYBRID経営計画(中期経営計画)



中期経営目標値

	H27年度実績	H30年度目標
売上高	143億円	160億円
経常利益(率)	14億円(9.9%)	16億円(10%以上)
海外売上高比率	11.9%	20%以上
新製品革新率*	13%	25%
棚卸資産回転率	7.4回転	10回転以上
ROE	7.6%	10%以上

*発売から3年以内
の新製品(モデル
チェンジ含む)の
売上貢献率

成長戦略:企業全領域を独自化させお客様に選ばれる経営

- (1)開発戦略: 3本柱(水・大気・ガス)に医療関連分野を加えた4本柱で事業拡大を図る。
- (2)海外戦略: 中国・東南アジア・中東に重点投資し、売上拡大を図る。
- (3)人財戦略: 全社員が総活躍出来る国際感覚を身につけ限界突破する。

(1)開発戦略：研究開発型企业を目指す



3本柱(水・大気・ガス)に医療関連分野を加えた4本柱で
事業拡大を図る。

- 「No.1ではなく ONLY ONE」の独自技術を指向
- 世界に貢献する企業づくり

開発研究センター(埼玉県狭山市)



EMC試験室



大気環境試験室



環境大気測定用
コンテナ局舎

狭山テクニカルセンター内に 医療関連機器専用の新工場を建設

● 人工腎臓用粉末型透析用剤溶解装置の増産と品質向上
←大手医療機器メーカーからの生産委託による増産要請
に対応

● 臨床医療用新製品の開発・生産

● 新工場の概要

建屋 : 延床面積 約3,300㎡
鉄筋コンクリート地上4階建

着工 : 平成29年1月(予定)

竣工 : 平成29年9月(予定)

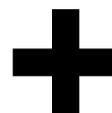
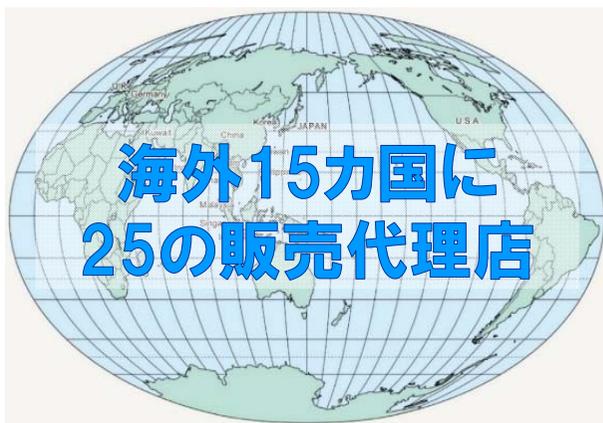
投資額 : 約12億円



完成予想図

(2)海外戦略

中国・東南アジア・中東に重点投資し、売上拡大を図る。



ソウル事務所の
開設

● 代理店との連携強化



クウェート国KCCEC社が
技術研修で来社。同国の
発電所や海水淡水化・石
油精製等の主要顧客から
の受注獲得を推進。



海外代理店広報活動
DKK-TOA News International
(代理店向け広報誌)の発刊

中国市場への取り組み

水 + 大気

● **環境水質分野:**
HACH CHINAと共同で順調に売上拡大

- **大気・排ガス分野:**
- PM2.5測定装置の中国国家認証取得
 - 「改訂版・大気汚染防止法」により、VOC*の排出規制が本格化
⇒展示会等でブランド力向上を図る
⇒提携した中国2社を通じ市場参入

*VOC (Volatile Organic Compounds) 揮発性有機化合物でPM2.5の生成物質



展示会「MICONEX2016」(中国・北京)
当社ブースのTV局取材の様子

全社員が総活躍出来る国際感覚を身につけ限界突破する。

● 海外営業部員の積極採用

● 新人事制度が本格的にスタート

- 総合職(幹部を目指し難度の高い業務に挑戦)又は担当職(特定業務の熟練度を上げつつ職務を拡大)を選択し、キャリアを積む
- 定期的な人事研修の実施

(例)若手・中堅社員の育成に、外部講師による研修を実施

● 「人財開発センター」を新設

幹部社員の育成活動の一環として、異業種講師による研修会やテーマ別発表会等を随時開催



当面の事業環境

- ↓ 国内：設備投資は低調で、客先の予算は圧縮傾向
- ↑ 海外：引き続き中国を中心に旺盛な需要

重点施策

- ✓ 営業推進本部を新設し国内営業力を強化
- ✓ 既存客先への信頼性向上と深耕
- ✓ 海外向けの国際競争力のある製品開発加速
- ✓ 技術サービス事業の拡大と顧客満足度の向上
- ✓ 特定製品の販促キャンペーンの積極展開

中期事業環境

- ↑ 国内：環境省第5次水質総量規制の更新需要は続く
- ↑ 海外：経済成長に伴う環境問題の顕在化と規制強化による需要拡大の傾向に変更なし

重点施策

- ✓ 国内：大型案件受注の推進
- ✓ 〃：医療関連機器の生産拡大
- ✓ 海外：中国2社と技術合作で大気分野の事業拡大
- ✓ 〃：展示会等によるブランド力の強化

ご清聴ありがとうございました。

1. 本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
2. 本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
3. 将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用ください。
4. 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
5. 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、皆様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

＜お問い合わせ＞

東亜ディーケーケー株式会社
経営戦略部 経営企画課
電話：03-3202-0242
メール：ir@toadkk.co.jp